

# 足立巻一と 戦後大阪

思うに、激動と混乱期の、戦争直後の大阪を軸にした地であって、足立巻一さんはいちやく稀に見る広角のオールマイティの詩人でした。戦中の暗い時代を生きのびて、多くの詩人たちが気迫をもって新しく時代に立ちむかおうとしたおり、そのなかにあつて足立さんは、今、私たちが真摯に向き合わねばならない貴重な詩的経験を、戦争期から連続する眼差しとして私たちにに向けてたくさん残してくれました。

今回はその足立巻一さんから学びましょう。

コロナ騒ぎを乗り越えて

11月7日 今年も神戸でお逢いしましょう。

## 足立巻一さん素描

1913(大正2)年生まれ。1932(昭和7)年、モダニズム系の詩誌(青騎兵)を亜騎保らと創刊。この亜騎は1940(昭和15)年におきたましい言論弾圧事件のひとつであった神戸詩人事件に連座したひとり。足立さんは勃発時軍隊にとられていたために逮捕をまぬがれた。戦後その亜騎らと「天秤」など同人誌活動を再開すると、終生この事件の真相を明らかにすべく訴えつづける一方で、『戦死ヤアワレー無名兵士の記録』など、戦中に倒れていった若者達の言論活動の発掘にも力を尽くした。戦後誕生した「新大阪新聞社」に入社。この新聞は「夕刊流星号」とよばれたつかのまの夕刊紙だったが、「働く人の詩欄」を設け、うら若き金時鐘や長谷川龍生らのスタートラインともなったり、既成にない斬新な企画によってユニークさで鳴らした新聞だった。同時に井上靖の誘いを受けて子どもの詩雑誌「きりん」の編集にも竹中郁と参加。1974(昭和49)年は本居春庭の伝記『やちまた』で第20回芸術選奨文部大臣賞を受けた。『まげもののぞき眼鏡〜大衆文学の世界』、『立川文庫の英雄たち』など鶴見俊輔らと組んで、大衆文化再評価の面でも活動した。初期文学学校の講師もつとめ、田辺聖子さんを育てたことはよく知られるところ。第一詩集『夕刊流星号』が45歳だったことと合わせて話題は尽きない。

2人の基調報告と基礎資料による参加者全員による徹底討論

2020年11月7日 [土]

- 受付 12:30-
- 開会 13:00- 総合司会 今野和代
- 報告 13:10- 司会 倉橋健一  
報告者 季村敏夫 たかとう匡子  
パネラー 扉野良人

- 休憩 15:10-
- 質疑応答 15:30-
- 休憩 16:40-
- 詩の朗読 17:00- ■閉会挨拶 17:50-
- 懇親会 18:15-

神戸女子大学教育センター5F 特別講義室

神戸市中央区山手通り2-23-1

(JR「三ノ宮駅」、阪急・阪神「神戸三宮駅」西口より  
生田神社西の道を北方向(山側)に約8分)

■参加費2000円 ■懇親会費 5000円

(参加費・懇親会費は当日受付でお支払いください)

問い合わせ先・申し込み先

倉橋健一 〒565-0085 豊中市上新田1-24 G-504 TEL/FAX 06-6834-6969

今野和代 〒564-0073 吹田市山手町4-14-18 携帯090-1149-4042 FAX06-6338-5796

今西富幸 Eメール imatomi8@gmail.com

参加申込書(申込締切日10月18日)

現代詩セミナーに参加します。懇親会 1 参加します 2 参加しません (○で囲んでください)  
朗読 1 朗読します 2 朗読しません (○で囲んでください)

氏名 \_\_\_\_\_ 電話・メール \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_